

WEST UNION



第430号

2025年3月11日

J R  
西労組 よなご  
west japan railway trade union - YONAGO

西日本旅客鉄道労働組合  
米子地方本部

発行責任者 大川 達也

編集責任者 平新 直大

25春闘妥結

米子地方本部の悲願が**実る**

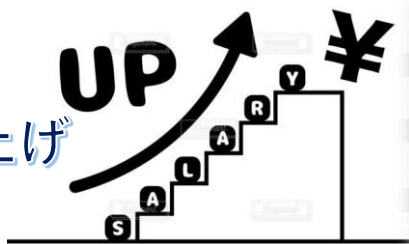
エリア手当を「**3%**」へ**改善!**

【主な妥結内容】

- ① ベースアップ：12,200円（シニア社員含む）
- ② 年間臨給：5,3箇月（夏、冬 各2.65箇月）
- ③ エリア手当：山陰支社 1%→3%

【その他※一部抜粋】

- 契約社員の時給額75円引き上げ
- M、L職の職務手当拡大
- 課長代理手当新設 5,000円/月
- 成績給の拡大 「20万」及び「30万」を追加
- インフルエンザ予防接種の補助対象拡大
- 社員持ち株会の奨励金引き上げ



※各種成果の詳細は本部ニュースを参照ください

【地方本部より】 ～米子地本の悲願を成就する！新たな歴史を築いた2025春季生活闘争～

「ベースアップに拘った春闘の展開を！」と多くの役員・組合員から意見を頂いて向かった25春闘。米子地方本部としては、エリア手当の改善を最優先課題と位置づけ、地域間格差の解消に向けて機運を高めてきた。現在のエリア手当は2003年（平成15年）に導入され、米子地方本部エリアで働く組合員は基本給に対して1%の手当（アーバンエリアは10%）となっていた。エリア手当は、基準内賃金に含まれることから、月例賃金のみでなく賞与も対象となり、年収ベースで大きな格差が生じていた。そのため、米子地方本部は数十年にわたり、エリア手当の改善に向けて要求を行っていたが、一度も改善を図ることは叶わなかった。そのようななか、この25春闘において長年の悲願であったエリア手当の改善を図ることが出来た。この成果は、コロナ禍における不安のなかでも、連日続いた酷暑のなかでも、世間は寝静まった寒い真夜中でも、365日働き続けた組合員の努力と米子地方本部の各支部・分会・部会・青年女性委員会における日頃からの献身的な労働運動への参画、活動から繋がったものであり、その強い想い（願い）が中央闘争委員会に届いたからであると確信する。

引き続き、私たちの働く価値の向上に向けて各級機関で力を合わせ、組合員とその家族の幸せを築いていこう。

**組合員の奮闘に心から感謝申し上げます！！**